

平成 28 年度 学校評価(自己評価)

あべの翔学高等学校附属 朝陽幼稚園

1. 教育基本方針

「すべては子供のために」を基本方針とし、

幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることと、幼稚園が義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであるため、体系的な教育を組織的に行うことを目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ① コミュニケーション能力(日本語&英会話)の育成
- ② 安全管理能力の育成(怪我防止・事故防止等)
- ③ 食育と心身の健やかな成長(自園調理にこだわる安心安全の給食制度・専門の講師による運動能力育成)
- ④ 保護者との情報共有(お子様ひとりひとりに対するていねいな保育実態と保護者との情報共有)
- ⑤ 情報開示とプライバシーの両立(日々の様子を写真で毎日HPに掲載)
- ⑥ 園児一人ひとりの様子を担任だけでなく教職員全員が把握(毎日の朝礼・終礼での情報共有)

3. 評価項目の達成及び今後の課題

評価項目	目標	目標設定理由	評価	自己評価	次年度の改善
コミュニケーション能力の育成	①挨拶の習慣 ②日常英会話力の習得と育成	①日常の挨拶が適正に出来るよう指導。 ②外国人との自然な出会いから始まる英会話導入の必要性を重視。	A	①挨拶指導は、一定の成果と評価を得ている ②ネイティブ外国人講師を園に派遣し、日常の遊びの中から自然な英語環境の導入に取り組んできました。一定の成果を得ていると考えられる。	園児、保護者の皆様が英語に対する恐怖心を取り除くよう、親子行事への外国人講師参加回数を増やす。
安全管理	園内での事故の撲滅	遊具の使い方、集団での遊び方指導を徹底し、重大事故の発生を未然防止する。	B	重大事故には至っていないが、園外活動中に滑り台で骨折する事故があった。	子供の自主性を尊重しつつ、集団行動のルールを守ることを指導してゆく。
体育指導	基礎体力の向上	発達段階に応じた基礎体力が備わっているとは言えない園児が散見されるため、基礎体力の向上・定着を図る。	A	専門の体育指導の教諭に毎週きていただき、体操教室を引き続き実施した。 ゲームを楽しみつつ体力、持久力を養うことができた	次年度もひきつづき実施していく。

教職員の 資質向上	マニュアル・ 手続書の充 実	園児増加に伴 い、配慮が必要 な園児も増えて 来る。教職員間 での気付き事項 を情報共有し、 保育内容を充実 する	A	園児一人ひとりの保育状 況、健康状況を毎日の朝 礼、終礼で情報共有するこ とは引続き出来た。	遊具での遊び方、登下校 での注意事項などのリスク 管理からマニュアル化を進 める。
行事の充 実	保護者満足 度・地域満 足度を意識 した行事の 中身を実 施。	地域に根差した 望まれる幼稚園 の実現	B	地域と一体となった園行事 (運動会、盆踊り会)、監督 消防署、地域と合同での研 修会を開催した	地域の皆様一人ひとりが 園児の安全を見守ってい けるよう、地域と一体となっ た行事を増やしてゆく。

※評価 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

3. 総合的な評価結果

評価	自己評価	次年度の改善
A	教職員間の情報共有や保護者との意見交換を通じ、 教職員の保育技術向上に努めている。 この結果、当園の特徴を活かした保育を園児に提供 出来ていると考える。	数年来継続して園児数が増加している中、園児一人 ひとりの個性を活かしつつ、「自由」と「決まり」を両立 する集団活動のルールを身に付けてゆく。

※評価 A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:わからない

4. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会の方々には、保育参観、運動会、生活発表会など、いろいろな保育場面を見て頂くようにしており、それを大切な評価観点とするようにしています。委員会では、附属朝陽幼稚園が大切にしている評価項目・取り組みが十分に達成されていることを確認させて頂きました。

教職員の皆様の日頃の指導のおかげで、挨拶、食育、躰など基本的能力が身に付きました。また、学習面だけではなく、自分の気持ちを伝えることの大切さ、お友達の気持ちを考えることの大切さを押し付けるのではなく、お勉強や遊びの中で子ども達が自然に理解し、人と関わることを身に付ける指導をしていただきました。

【学校関係者評価委員会構成】

評価委員長	保護者会会長	評価委員	保護者会書記
評価委員	保護者会副会長	評価委員	卒園児保護者
評価委員	保護者会地区委員長		

以上